



令和6年度放射線安全取扱部会年次大会 年次大会へのお誘い



令和6年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員長 佐々木 博之

令和6年度放射線安全取扱部会年次大会（第65回放射線管理研修会）を令和6年10月17日（木）、18日（金）の日程で『あがたの森文化会館』（長野県松本市県3丁目1番1号）にて、対面で開催します。関東支部が担当する年次大会は、平成28年度鎌倉市での大会以来となります。

コロナ禍によって変化した放射線管理は、DX化の推進に伴い従事者登録、教育訓練、健康診断記録等のデジタル化、オンライン化により環境は変わり、放射線測定信頼性確保等法改正が行われ新たな取組みが始まりました。またRI管理区域の縮小や廃止が続くなか、RI利用の拠点化・集約化、アスタチン等今までにない核種の利用が始まろうとしており、新たな局面を迎えています。

本大会のテーマは「コロナ禍を乗り越え逞しく～大正ロマン薫る講堂で是からを考える～」です。会場のあがたの森にあるヒマラヤスギのようにどんな環境にあっても“逞しく”，歴史・伝統を感じてこれを継承する“大正ロマン薫る”，ただししい・よいとして定めた方針という意の“是”を使用し、放射線取扱主任者として過去を学び現在から未来を考え、知識・技術の伝承、人材育成、安全文化醸成につながる大会になればと願っております。

大会1日目は、部会総会、功労表彰・放射線安全管理奨励賞の表彰式後、3つの特別講演、ポスター発表、相談コーナーを行います。

特別講演Ⅰは原子力規制庁による「最近の放射線安全規制の動向」についてご講演をいただきます。放射線測定の信頼性確保の運用が始まりました。各事業所は予防規程の改訂等が実施され新たな規制下で運用が始まっています。最新の規制の動向に関する情報収集の機会になると思います。

特別講演Ⅱは放射線影響研究所の中村典氏より「放射線被ばくと遺伝影響」についてご講演いただきます。様々な放射線被ばく状況における評価結果の見方や、ヒトとマウスの共通点と相違点等、最新

の知見をご紹介します。

特別講演Ⅲは日本診療放射線技師会の上田克彦氏より、「診療放射線技師の現状と社会貢献」と題してご講演いただきます。診療放射線技師養成の現状と働き方改革や放射線取扱主任者に係る法改正の現状、福島原発事故後に原子力規制庁や環境省と協働した社会貢献についてご紹介いただきます。

ポスター発表と機器展示は大会会場（講堂）とは別棟の本館で行います。発表者の方、参加者の方共に活発な意見交換を楽しんでいただければと思います。また参加者の方が立ち寄りやすく、発表者の方の成果を多くの方に見ていただけるようなアトラクション、ドリンクコーナー、Wi-Fi設備の設置もいたします。

大会2日目は、2つのシンポジウムを行います。シンポジウムⅠは「東日本大震災直後からの復興支援の振り返りからの学びと教訓」として、長崎大学の松田尚樹氏により「放射線取扱主任者と原子力災害の接点～初期対応から原子力災害時対策へ」、福島県立医科大学の山下俊一氏より「福島原発事故対応の経験と教訓」と題してご講演いただきます。

シンポジウムⅡは企画専門委員会企画として「RI施設の未来に向けて～施設維持のための縮小と連携～」として、RI施設の廃止や縮小の経験、その後のあり方の一例として、RI利用の拠点化や集約化、コミュニティ形成による協力体制等についてご講演いただくことで、必ずしもネガティブなだけではない、前向きなRI施設のあり方を考えていきます。

おわりに、ご存じのとおり松本市は今年の富山大会とはアルプスを隔てた位置にあります。日本海側から見たあのアルプスを内陸の松本側から眺めて、疲れたからだを温泉で癒しながら、ご当地グルメを愉しんでいただけたら幸いです。放射線管理に携わる多くの方のご参加を実行委員一同心よりお待ちしております。それでは、松本でお会いしましょう。

（富士電機(株)原子力・放射線事業部）